

PLANNING REPORT

2023

令和5年度 事業計画書



社会福祉法人

みささぎ会



CONTENTS

01

Introduction

- 02 目次
- 03 法人訓
- 04 理事長メッセージ
- 05 ポリシー
- 06 人手不足時代への対応
- 07 教育機関・外部企業との連携
- 08 バックオフィスの充実

02

About Our Group

- 09 藤井寺特別養護老人ホーム
- 16 高齢者ケアセンターつどうホール
- 23 高齢者ケアセンター大仙もずの音
- 34 北第1地域包括支援センター
- 36 1 on 1 保育園

03

Social Relation

- 40 ソーシャルリレーション事業

04

Skill-UP Program

- 46 学習計画

法人訓

- 探求と開拓

私たちは、“あったらいいな”という事業・サービスの開拓を探求し続けます。

- 自立と挑戦

私たちは、自己の能力を最高度に発揮し、新たなる事業の源泉とします。

- 情熱と実行

私たちは、誠実であることを誇りとし、情熱を傾け、想像と創造を胸に喜びのたねまきを行い、我も他も生きがいのある世の中にすることに寄与します。

—地域福祉の核となる—

新型コロナウイルス感染症という未曾有の災害により、働き方やコミュニケーションなど社会全体が変容することを余儀なくされました。私がコロナ禍において憂慮していた点は、ご利用者の生活の質を下げないこと、地域社会の弱体化にみささぎ会として何を為すべきか、の2点です。

まずご利用者の生活は、ご家族との交流制限や外出制限などにより、窮屈な時間が多くなってしまい、質の低下は否めませんでした。しかし、この長かった新型コロナ感染症予防対応も5類への移行が政府より示されたことで、やっと当たり前の日常を取り戻していくための前向きな話ができるようになりました。感染症予防と生活の質の向上を両立できる運営を実施します。

地域社会の弱体化ですが、コロナ禍により孤独・孤立化が進んでしまった地域社会が今後どのような方向に進んでいくのか、我々は間違いなく分水嶺を迎えています。

厳しさを増す社会状況に対応するため、総合生活相談、無料低額宿泊事業などを中心とした生活困難者支援に一層力を入れて対応します。また、こどもや若年世帯を支えるために、新たな取組としてこども食堂を開設します。地域のフレイル予防のためデリバリー型介護予防教室も全面的に再開します。

こうした活動を通じて地域福祉の核となれるよう、みささぎ会は邁進していきます。



理事長 奥田 赴視

介護

Nursing Care

その人らしさを大事に

- ニーズに応えるその人らしい生活
- 残存機能活用
機能が維持できる自立支援
- 認知症でも安心できる環境
認知機能に着目した生活環境
ユマニチュード、丁寧な言葉使い
- 褥瘡予防
寝かせきりにしないケア
ポジショニングの改良
- 尊厳を守るケア
食事用エプロンを不要にする工夫ある
食事環境
- 新型コロナウイルスをはじめとする
感染症予防の徹底

保育

Childcare

園児ひとりひとりと向き合う

- 由来である1on1を大切に
- 生命の保持と情緒の安定
安心安全な環境下で主体性、自己肯定感を
育む
- 楽しさを感じる食事
- 保護者支援
信頼関係を築き、保護者の自己決定を尊重
する
- 新型コロナウイルスをはじめとする
感染症予防の徹底

ソーシャル リレーション

Social Relation

“ あったらしいな ” を創造

- 生活困難者支援
総合生活相談
無料低額宿泊事業
こども食堂
- 認知症予防研究
脳トレ
デリバリー型介護予防教室
大阪大学との共同研究
デュアルタスク歩容機アルクダケ
VR回想法

人手不足時代への対応

POINT 01 経営戦略室の設置



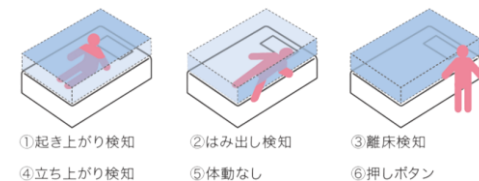
労務、勤怠、給与、人事、採用をクラウド化し、本部に集約。
本部機能を強化し、少数で法人運営全体を担う体制を構築。
会計も委託に頼らない方式にチャレンジ。
採用も多様な手法を活用し、低コストで幅広い人材獲得を目指す。

POINT 02 業務効率化の推進



介護負担軽減、迅速な情報共有、ご利用者の安心できる生活環境整備を目指す。

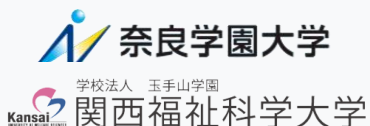
《シルエットセンサー例》



教育機関・外部企業との連携

各大学・企業とのコラボレーション

お互いの特性、強みを活かし、地域社会へ貢献する。これらの活動を職員教育に結びつけ、サービスの品質向上を目指す。



リスクマネジメント研究

安全管理対策向上に向けて
インシデント・アクシデント
報告書を活用した研究に協力。



大学院リカレント教育

学校教育から離れた後も仕事で
求められる能力を磨き続けられ
るよう、学びなおしを応援する
ため大学院との包括協定の締結。



認知症予防研究

VR、デュアルタスク歩容機を
用いた認知症予防開発システム
への貢献。



地域企業と社会貢献の コラボ

企業CSRと連携し、地域活性化、
地域福祉向上を目指す。

ー バックオフィスの充実 ー

ご利用者・ご家族が安心して利用できるということだけでなく、職員も安心して働くことのできる職場環境を目指す。

POINT 01 報連相の徹底及び丁寧な接遇の実施

- 相手が気持ちよく、元気になれるよう笑顔で丁寧に対応する。
- 各々が多くの情報を扱う自覚を持ち、報・連・相を徹底する。

POINT 02 業務効率化の取り組み

- デスク周り、書類等に加え、パソコン内のデータ上での整理整頓を行い、仕事の効率アップを目指す。
- 月に一度を目安に3Sの意識の元整理整頓を行う日程を組む。
※3S（整理・整頓・清掃）

POINT 03 在庫管理の徹底によるコスト削減

- 在庫管理方法・購入価格を見直し、高いコスト意識を職員間での共通認識とする。

実績目標

年間事務消耗品費
前年比

 **10** %削減



藤井寺 特別養護老人ホーム

01

藤井寺
特別養護老人ホーム

- ・ 生活支援部介護課
- ・ 看護課
- ・ 栄養課

02

藤井寺
デイサービスセンター

03

藤井寺
ヘルパーステーション

04

藤井寺
ケアプランセンター

サービス目標

利用者目線のサービス提供と拡充

実績目標（定員数：特養70名・SS10名）

年間稼働率

 **99.5** %

POINT 01 利用者が楽しめる機会を増やす

- 各フロアのイベントを企画し、開催する。
- 新しいアクティビティを考え、実施する。
- 『動画で楽しみが伝わる』ようリモートを活用する。



POINT 02 職員が学習する機会を増やす

- 認知症や接遇についての知識や技術の向上を目指すことでよりよいサービスの提供をする。



POINT 03 ニーズに合わせた介護の実施

- 一人ひとりが安全・快適に入浴できるような入浴方法の見直しを行う。



サービス目標

ご利用者が健康でその人らしく、安心して穏やかな生活を送っていただく為の感染予防に務める

実績目標

レセプト請求

230,000 点／月



POINT 01 尿路感染予防

- 介護士と排泄時の陰部洗浄を一緒に行うことで、尿路感染を予防し、陰部・臀部周囲の皮膚トラブルを予防する。



POINT 02 肺炎予防

- 胃ろうの方や、夕食分の口腔ケアをしっかり行うことで肺炎を予防する。



POINT 03 皮膚乾燥による皮膚トラブルの予防

- 特に入浴後の保湿と爪切りによるソウハによる皮膚トラブル、皮膚疾患を予防する。



サービス目標

- ・ ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努める。
- ・ ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供する。
- ・ こども食堂の取り組みに積極的に参加する。

POINT 01 個別対応の実施

- ・ 可能な限りの嗜好と食事形態の個別対応を行う。
- ・ 料理（主菜）の選択ができるセレクトメニュー制のサービスを行う。



POINT 02 献立・栄養ケアマネジメント

- ・ 献立は、食事摂取基準に基づいて集団の対象に適したものを立案する。
- ・ 多職種が協働で適切な栄養管理や定期評価を行い、利用者の食の個別対応、食事の確保・栄養改善を行う。



元旦：おせち

POINT 03 マンネリ化の防止

- ・ 四季の歳時に合わせた行事食と旬の食材、果物を生かした献立を作成する。
- ・ お楽しみ日には、外食ならではの“味”を楽しんでいただく。
- ・ “香り”による、直接ご利用者への刺激となる食事会や目元調理などのイベントを実施する。
- ・ 給食会議を活かした意見交換会を実施する。



節分：恵方巻

サービス目標

『利用者主体』のサービスを提供するため、
«自己実現欲求»を満たすアクティビティの
開発と環境整備を行う。

実績目標（定員数：34名）

実人数

 **100** 名

1日平均利用者数

上半期

32 名

下半期

34 名

POINT

01

新しいアクティビティ活動の開発

- ・ ニーズに沿ったアクティビティイベント、
農園活動の開発を実施する。
- ・ ご利用者のモチベーションが向上する創
作活動の作品を展示する場を設定する。



POINT

02

食事サービス

- ・ 農園でとれた作物を給食部と情報共有を
し、イベントメニューを提案する。



POINT

03

職員同士の連携

- ・ それぞれの個性を生かし、ともに笑顔で
楽しくいきいき活動できる雰囲気づくり
をする。
- ・ わずかな時間でも、職員同士がコミュニ
ケーションを行い、相互のニーズを把握
をする。
- ・ 家族、介護士、ケアマネジャー、医療機
関との連携を密にし、報告、連絡、相談
を徹底し、情報を共有をする。



サービス目標

個々に応じた生活援助と他事業所との協力体制の強化

実績目標

月平均



800

時間

実人数



90

名

POINT 01 好循環を生み出すチーム作り

- 直接的な支援にやりがいを感じているモチベーションの持続のため、スキルアップ研修を行い、更なる相互の満足度向上を目指す。

STEP
01

■ 研修

スキルUPに向けた情報を収集し、部署内で研修をする。

STEP
02

■ スキルUP

研修を活かし、スキルを上げる。

STEP
03

■ 利用者増加

スキルの上ったヘルパーが訪問することで、ご利用者の安心感にも繋がり、訪問利用が増加する。

STEP
04

■ 信頼関係構築

利用増加によりご利用者との距離感が近くなり、ご要望の理解や本音を聞きやすい環境になる。

STEP
05

■ 個別対応の発見

要望に沿った介助へと繋がりやすくなることから、個別の相互理解の関係性が強くなり、よりヘルパー自身のモチベーション向上、維持に繋がる。

POINT 02 ご家族の介護負担を軽減

- 介護をしているご家族の心にも寄り添い、ご家族の介護負担を軽くする。
- ご家族とより密なコミュニケーションを取り、介助のコツや対応方法をご家族から学ぶ。



サービス目標

- ・ ご利用者、ご家族のニーズに応じて必要な援助を行い、できる限り在宅で自立した生活が送れるように支援する。
- ・ 地域の方々にとって、身近な相談窓口として機能するよう関係性を構築していく

実績目標

- ・ 平均130件/月
- ・ 自法人デイサービス 40件/月
- ・ 自法人ヘルパー27件/月

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
プラン件数	125	129	130
自法人 デイサービス	35	36	40
自法人 ヘルパー	26	27	27

POINT 01 職員内情報共有の徹底

- ・ ケアマネ会議、LINEWORKS等で情報を共有する。
- ・ 新型コロナウイルス陽性判明、虐待等といった緊急時は主任ケアマネを中心に対応する。



POINT 02 地域住民と関係性の構築活動

- ・ 介護予防教室や自治会の地域防災会議、子ども食堂等に参加することで地域との関係性を築いていく。



POINT 03 平常時の災害対策

- ・ 利用者宅のハザードマップで確認、浸水等災害リスクの把握をする。
- ・ 利用者台帳に、医療機器使用者や独居、高齢者生態が一目で把握できるように整理し、災害時は安否確認等優先して対応できるようにする。



高齢者ケアセンター つどうホール

01

特別養護老人ホーム
つどうホール

- ・ 生活支援部介護課
- ・ 看護課
- ・ 訓練課
- ・ 栄養課

02

デイサービスセンター
つどうホール

03

ヘルパーステーション
つどうホール

04

グループホーム
つどうホール

05

ケアプランセンター
みささぎ

01

高齢者ケアセンターつどうホール

特別養護老人ホームつどうホール 介護課 看護課 訓練課

サービス目標

ご利用者に合った個別ケアを行う。

実績目標（定員数：特養50名・SS17名）

年間稼働率



100 %

POINT 01 想いの実現

- ご利用者の主訴実現のため、誕生日には希望の食事を召し上がっていただく。



POINT 02 カンファレンスの見直し

- 適切な排泄介助を実施するため、排泄形態について最低月1回はカンファレンスで見直しを行う。



POINT 03 イベントの充実

- 季節感のある行事やレクリエーションを企画し、実施する。



POINT 04 食事サービス

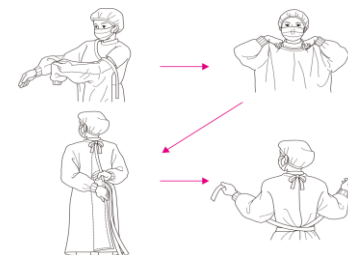
- 満足感のある食事提供のため、食事形態を主食6形態、副食5形態へ。可能な限りやわらか食の提供をする。





POINT 01 緊急時対応感染症予防対策のレベルアップ

- 吸引の手技方法、AEDの操作方法、心臓マッサージ等の応急手当について定期的な研修を行う。
- 感染症に対する知識とガウンテクニック等の感染対応について定期的な研修を行う。



POINT 02 業務効率化の推進

- ショートステイの入退所時は「持ち物チェックアプリ」を活用し業務負担を軽減する。
- 日々の業務を客観的に把握し、偏りある業務を評価し、業務全体の質の向上をする。



POINT 03 ”その人らしさ“のある居室空間作り

- 「〇〇さんの部屋」と分かるような、家族写真や思い出の私物に溢れる、個性を活かした部屋作りを行う。



サービス目標

身体機能維持へのプログラム作成及び認知症
予防プログラムの継続

実績目標（定員数：50名）

1日平均
利用者数

 **42** 名



POINT 01 リハビリ特化型のサービス開発

- 要支援者中心に小集団で行うリハビリプログラムに参加して頂き、身体機能の維持に努める。



POINT 02 認知症予防プログラムの実施継続

- デュアルタスク歩容器や脳トレのプログラムを希望されるご利用者は継続して実施する。



POINT 03 安全で事故やミスのない送迎業務の実施

- つどうホール周辺の道路は道幅も狭く、小学生や高校生の通学経路でもあるため、安全で無理の配車計画を立てる。



サービス目標

個々に応じた生活援助と他事業所との協力体制の強化

実績目標

月平均



700 時間



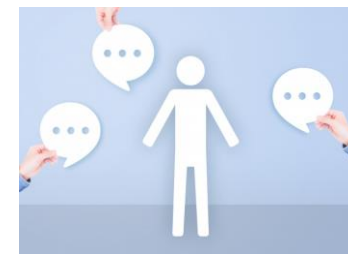
POINT 01 残存機能の活用で在宅生活を継続

- 身体機能の維持とご自身の役割や達成感を感じてもらうために、生活援助はできるだけご利用者と一緒にを行う。



POINT 02 藤井寺ヘルパーステーションとの協力体制を強化

- ヘルパーの急な体調不良により、ご利用者に迷惑を掛けないように、藤井寺ヘルパーステーションとご利用者の情報を共有しておく。



サービス目標

- ・ ご利用者個々に合った活動の提案
- ・ 地域との交流を増やし、企画を行う。

実績目標（定員数：9名）

年間稼働率

 **100** %



POINT 01

ご利用者それぞれに合った活動の実施

- ・ 食事の盛り付けや洗濯物たたみなどを一緒に行い、役割や達成感を実感していた。
- ・ 誕生会ではご利用者が希望した食事とオリジナルのケーキを作り、お祝いをする。



POINT 02

ご家族へのサポート

- ・ ご家族に日ごろの過ごし方を知って安心して頂くために、1年間のグループホームでの様子をまとめた写真集を作成し、プレゼントをする。



POINT 03

藤井寺市主催グリーンカーテンコンテスト 2 連覇

- ・ 令和4年度のコンテストで団体の部「最優秀賞」を受賞。令和5年度もご利用者と一緒に関心しながらグリーンカーテン生成に取り組む。



サービス目標

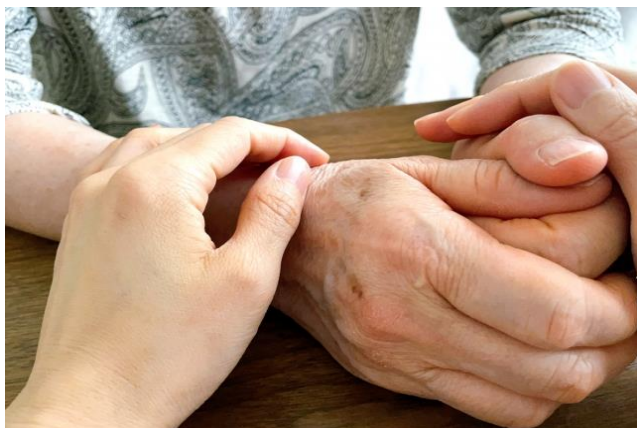
関係各所との連携及び定期的な事例検討会の実施

実績目標

月平均

ケアプラン作成件数

 **135** 件／月



POINT 01

在宅医との連携強化

- 新規利用者の紹介や担当のご利用者の情報共有のために、在宅医と顔なじみの関係作りに努める。



POINT 02

施設内の在宅サービス事業所の書類チェックの実施

- 施設内のデイとヘルパーが適切な運営をするため、在宅サービス計画書に応じた個別援助計画の作成や、加算算定根拠書類が適切か等第三者の視点で定期的に確認する。



POINT 03

法人内のケアプランセンターの事例検討会の実施

- ご利用者やご家族により良い支援を行うために、藤井寺特養と大仙もずの音のケアプランセンターとの事例検討会を実施し、対応方法や制度について理解を深める。



高齢者ケアセンター 大仙もずの音

01

特別養護老人ホーム
大仙もずの音

- ・ 生活支援部介護課
- ・ 看護課
- ・ 栄養課

02

大仙もずの音
デイサービスセンター

03

大仙もずの音
ケアプランセンター

サービス目標

その人らしい生活を送るための継続的な支援を行う。

- ・ 丁寧・細やかな生活援助と基本介護を最優先事項として徹底する。
- ・ ご利用者一人ひとりの個性や生きがいを尊重し、生活の中で自己決定できる場面をより多く作る。

実績目標（定員数：80名・SS：20名）

年間稼働率

 **99** %

- ・ 実人数60名以上を確保する。
- ・ すぐに利用可能であるキャンセル待ちを、絶えず5件以上確保する。
- ・ 早期利用に繋がる、特養・ロングショート待機者を常に3名は選定しておく。
- ・ 病院等で空床ができた場合は、電話・FAXにて営業する。

POINT 01 ご利用者の主訴を実現

- ・ ご利用者が夢中になれる事、生きがいと感じる事を、1年間継続していただく。
- ・ 対面での面会を楽しんでいただく。
- ・ 遠足、買物、外食、外泊等の外出支援を再開する。



POINT 02 ご利用者・ご家族が望むターミナルケアの実現

- ・ 看取りケアマニュアルをもとに、ご利用者の状態変化に応じた、場面ごとのケアを実践する。
- ・ ご利用者が元気な間に、ご家族と相談の上で、ターミナル期に望む生活を確認し、ご利用者とご家族が望む生活を送って頂く。
- ・ ターミナルケアが終了した後、関係する職員で振り返りを実施し、次のターミナルケアに繋げていく。

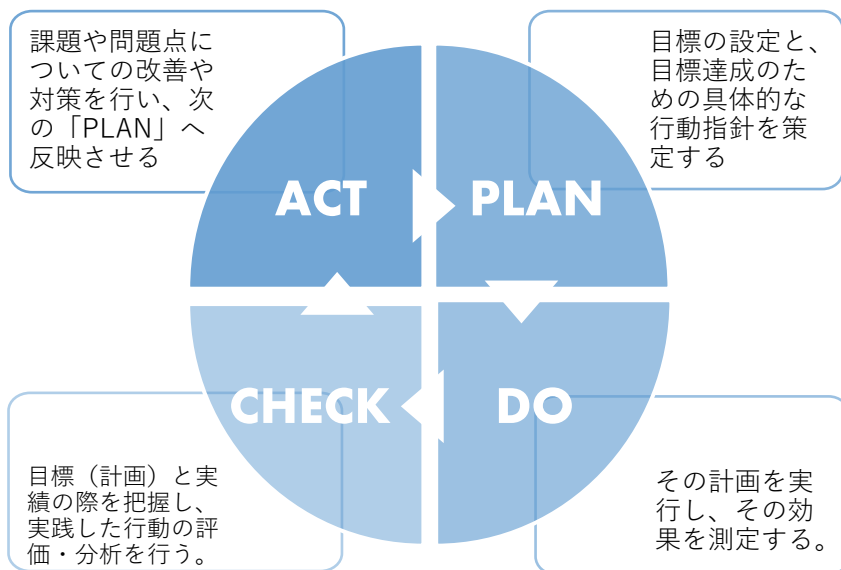


POINT 03 業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、1年間で10個の業務改善を行う。

- 自動体位変更機能付きエアマット、シルエットセンサー等を活用し、直接介護に関わる業務時間の短縮を図る。
- PDCAサイクルを徹底し、フロア会議、リーダー会議にて、効果を検証する。



- 業務プログラムの更新と介護補助員の配置を、都度見直していく。



サービス目標

ご利用者が健康でその人らしく、安心して穏やかな生活を送っていただく為の感染予防に務める

実績目標

レセプト請求

200,000 点／月

- ・ カルテの記入漏れを防ぐ。
- ・ 備品の個人負担分の請求漏れを防ぐ。



POINT

01

心身の異常の早期発見・早期対応

- ・ 利用者に直接触れ、観察し心身の異常の早期発見・早期対応に努める。
- ・ 申し送りは、簡潔具体的に行う。特に夜勤者への申し送りは具体的に説明する。



POINT

02

看取りケアの実施

- ・ プレターミナル期にある特養入所者のご本人・ご家族の意志を尊重し、終末期ケアを実施する。
- ・ 看取りケアの学習会や振り返り会を通じて、施設における看取りケアを確立する。



POINT

03

チームケアを大切にする

- ・ 介護場面、行事、大掃除等に積極的に参加する。
- ・ 他部署・上司・同僚との報告連絡相談を密に行う。



サービス目標

厨房業務をマニュアル化する。

- ・ 行事食や食事会、日常においても作業工程をマニュアル化し、厨房内での作業内容の統一、改善に取り組んでいく。



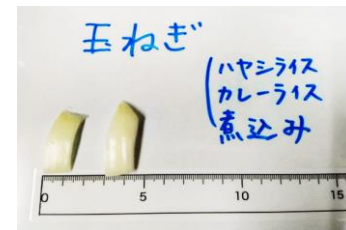
POINT 01 行事食・食事会の実施、新メニューの開発

- ・ 季節ごとの行事食や目前調理を実施し、食事に対する楽しみを持っていただく。
- ・ ご当地メニュー等新しいメニューにも取り組んでいく。



POINT 02 調理業務のマニュアル化

- ・ 食材の切り方、手順、提供基準を分かりやすくまとめていく。
- ・ 誰が調理しても、食べやすい給食提供が行えるよう基準を作成していく。



POINT 03 給食評価の実施

- ・ 提供している給食がご利用者にとって適切なものであったか残食調査や評価シート等を利用し評価する。
- ・ 評価した内容から提供量の見直し、調理や盛り付けの改善に繋げる。
- ・ 特にムース食の提供方法に関して改善に取り組む。



POINT 04 酵素使用方法を検討する

- ・ 魚類は酵素を使用したやわらか食の提供を以前より行えているため、肉類での酵素使用方法を検討していく。
- ・ 日常の献立でも酵素を使用した調理が行いやすい方法を確立していく。



POINT 05 コスト削減

- 食材等の価格が高騰が生じているため、前年度の同等の給食材料費で提供が行えるよう、コストの削減に取り組んでいく。
- 材料や使用量、業者の直しを行い、日々の光熱水費の削減が行えるような行動を心がけていく。

POINT 06 配食サービスの検討

- デイサービス利用者や地域の方を対象に実施できる新たなサービスとして、配食サービスの開始を検討する。



大仙もずの音デイサービスセンター

サービス目標

- ご利用者が役割を持ち、他利用者や職員と共に主体的な活動ができるよう支援する。
- 「認知症予防と自立支援」及び「適切な認知症（予防）ケア」を提供できるデイサービス作りを行う。
- 「潤脳チャレンジ」をキャッチフレーズとし、認知機能を最大限に発揮していただくサービスメニューを確立する。

実績目標（定員数：45名）

1日平均利用者数

稼働率



36 名



80 %

年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 平均
実績／日	34	35	35	36	36	37	38	38	37	36	35	35	36
実人数	109	112	112	115	115	118	121	121	118	115	112	112	115.0
新規	5	6	5	6	5	6	6	5	4	4	4	4	5.0

POINT 01 リハビリテーションの充実

“やった感”のある負荷を調整した運動を実施する。

- 内容：小集団（棒体操、立位運動など）で、在宅生活継続のためのADL向上を目指した個別性の高いリハビリ
- 小集団（場面別ADL動作練習） ADL動作練習
- 個別リハ：器具を活用したリハビリ
- 内容：エアロバイク、ステッピング、マイクロ



歩行練習



棒体動

POINT 02 レクリエーションの充実

興味に合わせた多様なレクリエーション
（クラブ活動）の継続的提供

例）創作、麻雀、カラオケ、園芸、フラワーアレンジメント、
飼育、陶芸等



麻雀



創作

POINT 03 イベント食・おやつレクの実施

ご当地グルメや目の前でおやつを作り、月々の楽しみを実感していただく。



ご当地グルメ弁当



おやつレク

POINT 04 バランスや形態、動作に配慮した食事の提供

“認知症予防のための食事”

- 管理栄養士が作成したメニューにより主食、副食（主菜・副菜2つ）汁物等、栄養バランスに配慮した食事を提供する。
- 野菜をたくさん使ったメニューを提供することで、不足しがちなビタミン類の摂取を促す。
- ムース食の提供や自助具を使用することで、食事が低減しがちな咀嚼・嚥下障害と認知症を有するご利用者に、栄養バランスと食事量を確保する。



POINT 05 季節を感じられるイベントの実施

季節風呂、誕生日会、外出レクの増加等



季節風呂



外出（敷地外）

POINT 06 環境をリニューアル

分かり易いフロアレイアウトへ。

ご利用者が場所を覚えやすい配置にし、やりたいことの準備等のご自身で行うよう促す。



リラックススペースの継続

- マッサージ器具を設置。



大仙もずの音ケアプランセンター

サービス目標

- ご利用者が住み慣れた自宅で生活が出来るようご本人、ご家族の意向に沿ったケアプランの作成を行う。
- 地域福祉の担い手として、地域に暮らす人びとの生活を支えるため地域のニーズに応える取り組みを実践していく。

実績目標

- 月平均
- ケアプラン作成件数 **160** 件／名



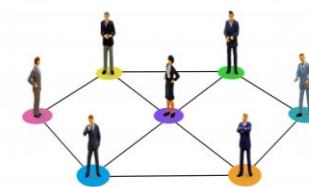
POINT 01 近隣包括との関わり

- 定期的な営業、日頃からの関わりを持ち、包括からの新規依頼を受けた際は対応を行い協力できる体制作りを目指す。



POINT 02 地域住民と関係性の構築活動

- 日頃から地域の活動や地域住民との関わりを持ち、気軽に相談ができる地域の窓口を目指す。
- 現在関りのある地域以外の住民と関わりも継続し、より一層地域住民との輪を広げていく。



POINT 03 他部署との連携

- 自法人サービスの利用率に目を向け利用率の増加を目指す。
- デイサービス、ショートステイの併設を生かしニーズに合ったサービスの提供が行えるよう各部署協力し携わっていく。



社会福祉法人
みささぎ会 北第1地域包括支援センター

北第1地域 包括支援センター

北第1 地域包括支援センター

サービス目標

- ・ 積極的なアウトリーチ。
- ・ フレイルを予防し、健康寿命を延伸する。
- ・ 権利擁護についての研修を行う。
- ・ 圏域のケアマネジャーの質を向上させる。

POINT 01 総合相談支援

- ・ 月1回、イオンにおける「まちかどつながり相談室」の開催を継続していく。
- ・ 地域のネットワークを強化し、様々な機関との連携を深めていく。



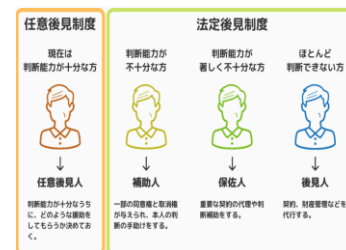
POINT 02 介護予防

- ・ 地域の集いの場（現在13箇所）に参加し、介護予防の普及啓発を行う。
- ・ 自主的に継続できる動機付けに力を入れ、健康教育、運動、脳トレ等を行う。
- ・ 地域の集いの場が増えるよう、地域支援者を後方支援していく。



POINT 03 権利擁護

- ・ 年1回、ケアマネ・サービス事業所向けに虐待予防研修を開催する。
- ・ 虐待通報があれば、早急に対応し、高齢者の権利を守る措置をとる。
- ・ 地域の集いの場に参加し、特殊詐欺被害防止の啓発や、成年後見制度の普及啓発を行う。



POINT 04 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ・ 年2回、圏域ケアマネ事業所に対し、交流会・勉強会を開催する。
- ・ 困難事例において、随時、後方支援を行う。





One On One
ワンオンワン ほいくえん

サービス目標

小規模で家庭的な環境を作りや安全を最優先した保育をし、
一人一人の個性を伸ばしていく。

実績目標（定員12名）

開園区分を完全週6日以上に移行
年間平均入園者数

9.2 名／日



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
開園区分	週6日未満	週6日未満	週6日未満	週6日未満	週6日未満	週6日開所	週6日開所	週6日開所	週6日開所	週6日開所	週6日開所	週6日開所	—
0歳児	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	20
1歳児	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
2歳児	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	43
合計	8	8	8	8	9	10	10	10	10	10	10	10	111



POINT 01 豊かな身体感覚を養い、一生の土台となる身体を作る

- 散歩を日々取り入れ、自然に触れる機会を多くする。



POINT 02 豊富な食材、独自の献立により栄養バランスの取れた食事を提供する

- 食べる達成感、充実感を味わい、楽しく食べる。



POINT 03 安全な保育の提供

- 園児個々の最新の情報を、会議や職員の連絡ノートを通して共有し、統一した保育を提供する。
- 緊急時の対応（救命救急、乳幼児突然死症候(SIDS)防止）に関する学習会を毎月実施する。
- 主要感染症の学習会を毎月行い、日々の予防策を徹底し、体調変化の早期発見に努める。

POINT 04 保護者支援

- 子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられる支援をする。
- 多様化している家族への理解(外国籍家庭への配慮と支援、コミュニケーションを取る)をする。

POINT 05 風通しの良い職場環境づくり

- 会話を大切にする。
- 人を尊重する。
- 気持ちを聴く。
- 自己決定を尊重する。
- 相手に寄り添う。
- 感謝をする。



POINT 06 年間予定表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園児 行事予定	 お花見 誕生会	 端午の節句 誕生会	 時の記念日 誕生会	 七夕祭り 誕生会	 夏祭り 誕生会	 おいもほり 誕生会	 ハロウィン 消防署見学 誕生会	 紅葉散策 誕生会	 クリスマス会 誕生会	 新年お楽しみ会 誕生会	 節分 誕生会	 ひな祭り 卒園・修了の集い 誕生会
職員 学習会	職業倫理 法令順守 苦情受付 苦情対応	事故予防 新型コロナ ウイルス 感染症対策	熱中症対策 食中毒 感染症対策	AED 緊急時対応 虐待防止	事故防止 RS ウイルス 感染症対策	保護者対応 各種 アレルギー 基礎理解	保育技術 インフル エンザ 感染症対策	事故予防 りんご病 感染症対策	保育技術 ノロ ウイルス 感染症対策	風疹感染症 対策 SIDS 防止緊急時 対応	事故防止 虐待防止	保育技術 溶連菌 感染症対策



① 災害支援ソーシャルワーク活動



② 認知症予防・デリバリー事業



ソーシャルリレーション事業

④ 無料低額宿泊所



⑥ 総合生活相談



ソーシャルリレーション事業



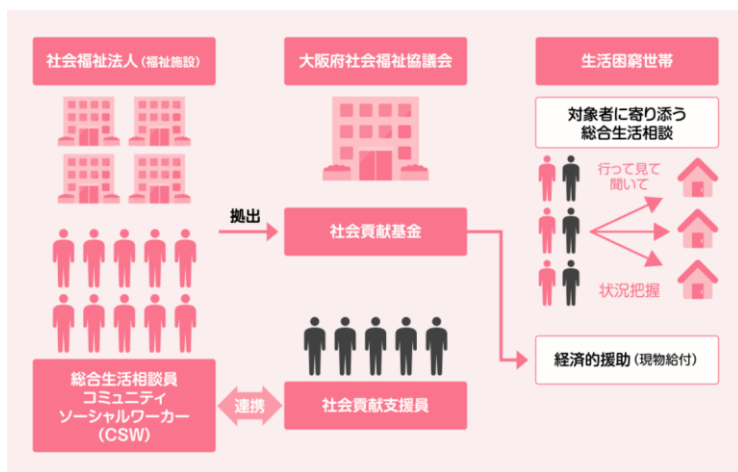
ミッション 自助努力の及ばないところに発生するすべての生活課題に対して支援を行う。
制度の枠にとらわれず、公益性のある仕事を自ら開拓し、“あったらいいな”という事業を創造する。

POINT 01 総合生活相談

- 社会の課題（格差問題、貧困問題、介護、DV、虐待、子どもの孤食、家庭内暴力等）に対し、ソーシャルリレーション推進室のソーシャルワーカー（社会福祉士等）が中心になり、どのような相談事もたらい回しにしないことをモットーにソーシャルワーク活動を行う。

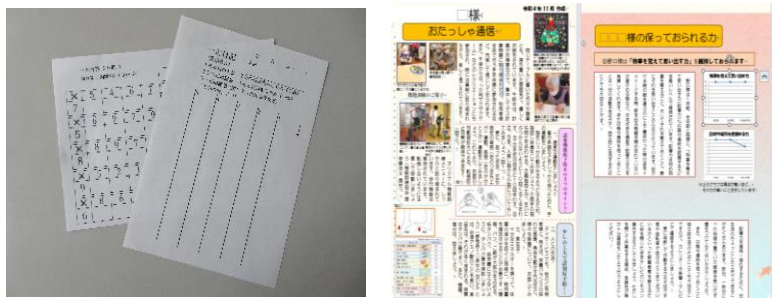
POINT 02 無料低額宿泊事業

- 住宅に困っている緊急を要する生活困窮者に対して、社会福祉法に基づく福祉サービスの基本理念に則り、無料又は低額で居室を貸し付け、又は宿泊所その他の施設を利用してもらい、自立した生活に向けて生活支援や就労支援を行っている。



ソーシャルリレーション事業

POINT 03 脳トレ

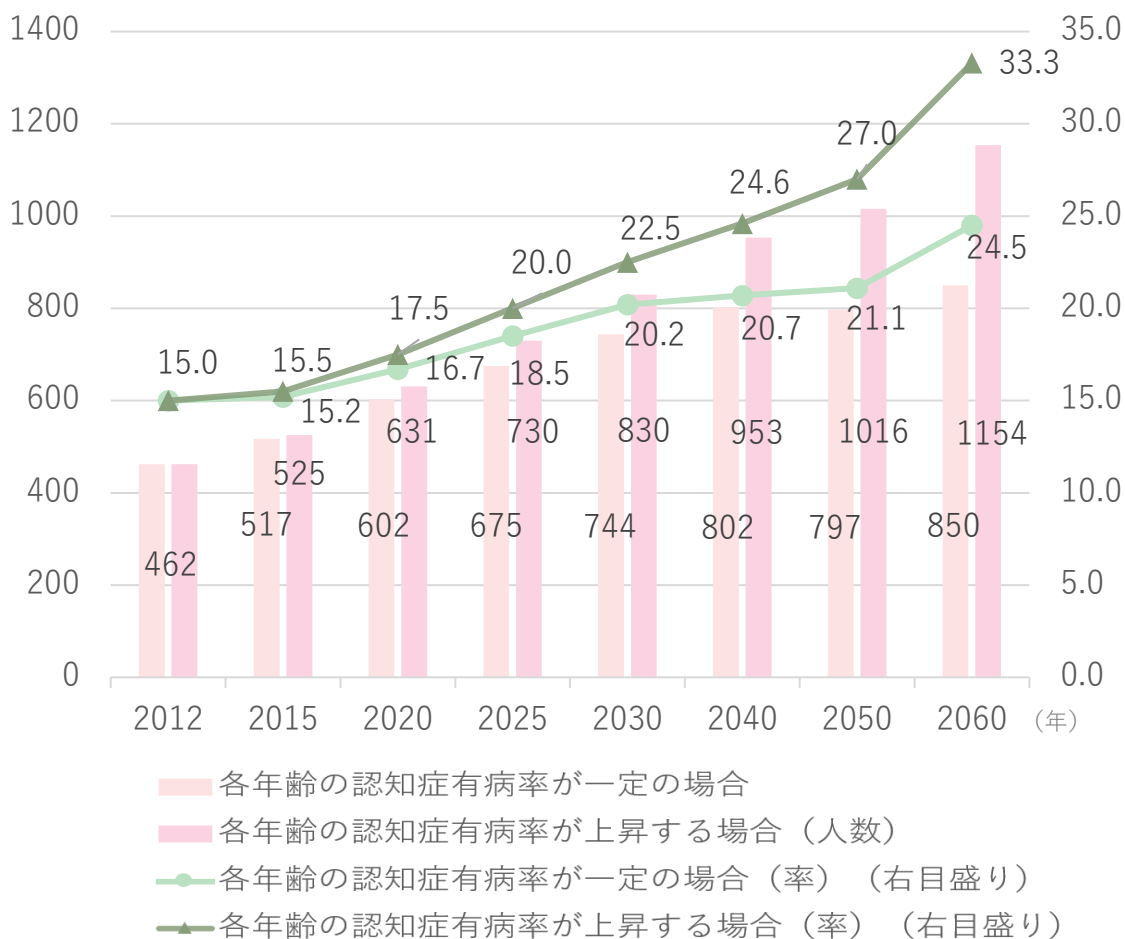


対象者：デイサービス利用者

参加人数：180名程／月

- 考える力や集中力を養うために、“読み・書き・計算”等の認知機能トレーニングを継続して実施する。
- 認知機能に関する「測定」「評価」「分析」を行い、利用者並びに家族へ個別にフィードバックを行う。
(年1回)

(万人) 65歳以上の認知症患者の推定者と推定有病率



「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」
(平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授より内閣府作成)

POINT 04 デュアルタスク歩容調査研究



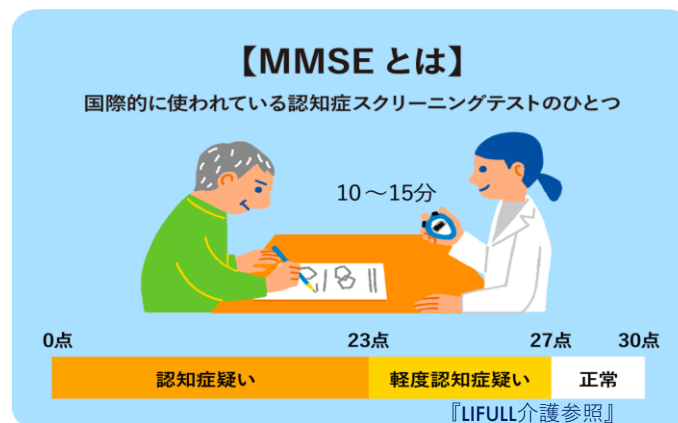
対象者：デイサービス利用者

参加人数：80名程／月

- 大阪大学八木康史教授方との共同研究である高齢者歩容解析に関する研究にて、各施設デイサービスセンターに常設の歩容測定機器を設置、計算課題と歩行を同時に行う。
- 期待：同時に二つの情報を処理することは、脳に負担がかかり、認知機能の活性化に繋がると考えられる。

! 重点項目

- AIが歩容から判断したMMSEと実際のMMSEで乖離のあった事例を重点的に調査し、因果関係を調べる。
- 脳トレなどの活動を積極的に参加している方へのアンケート調査を行い、生活の意欲（モチベーション）が、認知機能や日々の生活と関連がないかを調査する。



ソーシャルリレーション事業

POINT 05 デリバリー型介護予防教室



対象者：藤井寺市、堺市在住の地域住民

実施場所：各地区の集会所や地域会館

- A) 転倒予防体操
- B) 思考活動（潤脳活動）
- C) 潤脳講座
- D) デュアルタスク課題
- E) 集団アクティビティ

期待：認知症・フレイル予防、社会参加活動

	地区	担当	開催月（予定）							
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1	南藤井寺 (第2水曜)	藤井寺	○				○			
2	藤ヶ丘 1・2丁目	藤井寺	○				○			
3	藤ヶ丘西	藤井寺			○				○	
4	さくら町 (第2土曜)	藤井寺		○				○		
5	春日丘新町 (第2木曜)	藤井寺			○				○	
6	陵南町 (第3土曜)	藤井寺		○				○		
7	藤井寺	藤井寺			○				○	
8	野中	藤井寺				○				○
9	東藤井寺 (第2土曜)	つどう				○				○
10	御舟町	つどう		○				○		
11	川北	つどう		○				○		
12	川北老人会	つどう			○				○	
13	大井	つどう	○				○			
14	西小室1丁目	つどう	○				○			
15	小山藤美町	つどう				○				○
16	堺区9班 (第2木曜)	堺		○				○		

NEW

- 家庭の事情により、自宅で子供のみで過ごすことが多く、孤食の状況にある子供を対象に、昼食の提供や勉強、遊び体験等を行う。



Skill-UP Program

— 学習計画 —

『啐啄同時（そったくどうじ）』

師匠が弟子に知恵の伝達を行う際の禅語です。



啐啄同時とは、鳥の雛が卵から産まれ出ようと殻の中から卵の殻をつついて音をたてた時、それを聞きつけた親鳥がすかさず外からついばん殻を破る手助けをすことを意味します。

これが「啐」と「啄」の関係です。互いが響同＝協同し合った時、新しい何かが誕生するのです。



学習の目的

志を抱き、自らの理想のためにはどのような境遇もいとわぬ人物となるための成長の機会を提供することを、当法人における学習の目的とします。

専門的な知識と技術を習得するのみならず、品性や感性を磨き、ご利用者や地域社会に貢献できる人材を育みます。

職業人として、そして自分自身の生活がより豊かな日々になるように自己研鑽に努めましょう。



機会の提供

年齢、キャリア、資格、職種、生育歴、国籍等々、多様な人材が働く福祉現場において、一律な学習の機会ではなく、個々の意思や意欲・状態に応じた、学びの機会を提供していきます。

01

新人から3年目など発達段階の職員を重点的にサポートします

- 継続的なフォローアップ学習会を実施
- チューター制度

02

すべての職員が、希望する分野を学べる機会を提供します

- ブラッシュライフ制度の新設
- 各種、内部学習会・外部研修の充実
- スポットライト制度

03

学び実践したことを、アウトプットする機会を作ります

- 法人内実践事例発表会の開催
- 大阪府や堺市の実践事例発表会での発表
- 各種専門誌やマスコミへの発信



ー 入職から2か月間のサポートプラン ー

座学



1 週目
オリエンテーション
新人学習会三日間

2 週目 現場研修（日勤）

3 週目 現場研修（日勤）

4 週目 現場研修（日勤）
* 他部署体験：洗濯・掃除等

5 週目 現場研修（日勤）
* 他部署体験：デイ・ヘルパー

6 週目 現場研修（夜勤×1～2回）

7 週目 現場研修（日勤）
補講（座学） * 独り立ち準備

8 週目 現場研修（日勤）
* 独り立ち準備

部署体験



夜勤体験



独り立ち準備



後半カリキュラム

- ・ 医療的技術
- ・ 摂食嚥下のメカニズム
- ・ 事故再発防止 KYT(危険予知) 訓練
- ・ 仕事の基本（トレーニングビデオ）
- ・ 介護保険制度の基礎的理解
- ・ 先輩講話
- ・ 利用者体験



前半カリキュラム

- ・ 法人理念
- ・ 高齢者施設職員となって
- ・ 社会貢献事業
- ・ 認知症の基礎的理解とユマニチュード技法
- ・ 食事介助の基礎
- ・ 入浴介助の基礎
- ・ 排泄介助の基礎
- ・ 移動・移乗介助の基礎
- ・ 生活援助の基本
- ・ 感染症予防対策
- ・ 高齢者虐待防止（人権保護）
- ・ 個人情報の保護
- ・ 身だしなみと礼儀正しさ

ー 3カ年サポートプラン ー

専属チューターが2年間サポート



新人職員には、おにいちゃん、おねえちゃんのような存在の職員が優しくサポートします。

36か月目



24か月目



18か月目



12か月目



6か月目



他施設を知ろう！
大阪トップ施設との交流会！
見聞を広げるチャンス！
気づきから新たなチャレンジ！



ニヤっとする報告会
利用者とのニヤっと話を披露。
自分のやりがいをアウトプット！



THE キャンプ：同期のキズナアップ！
OJTスキル：後輩指導スキルを磨く



ニヤっとする報告会
利用者とのニヤっと話を披露。
自分のやりがいをアウトプット！



マイブーム報告会：伝達スキルをアップ！
アンガーマネジメント
セルフコントロールスキルアップ！

ーすべての職員が、希望する分野を学べる機会を提供しますー



ブラッシュライフ制度

- ✓ 福祉介護に捉われず、『日本の資格・検定』取得をサポートします。



選択制のスキル学習

- ✓ 内部学習会は、年間計画を周知し参加者を公募します。
- ✓ 外部研修は、より広く公募します。



スポットライト制度

- ✓ 定期的な上司との面談の場を設け、目標設定や実現したいことを共有します。

02 学習計画

— 学習予定 —

令和5年度 学習会

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設内学習会	新人合同学習会												
	フォローアップ学習会												
	外国人向け学習会												
	中途採用学習会						随 時 開 催						
	リーダー学習会「天地塾」						随 時 開 催						
	介護技術学習会		食事			排泄			入浴			移乗移動	
	医療知識学習会												
	事故発生防止のための学習会（2回必要）												
	医療的ケア学習会・オンコール見取りの指針												
	褥瘡予防対策学習会												
	感染症予防学習会												
	人権学習												
法人内実践事例発表会													
外部学習会	ユニットリーダー研修												
	認知症介護実践リーダー研修												
	認知症介護実践者研修												
	ユマニチュード研修												
	海外視察研修												

状況に応じて随時参加可能

ー学び、実践したことをアウトプットする機会を作りますー



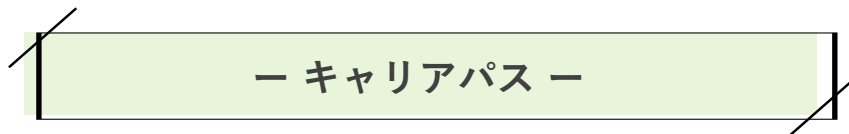
発表は、実践内容を客観視でき、**新たな視野を獲得できる**成長の機会です

CAREER PATH

— 学習計画 —

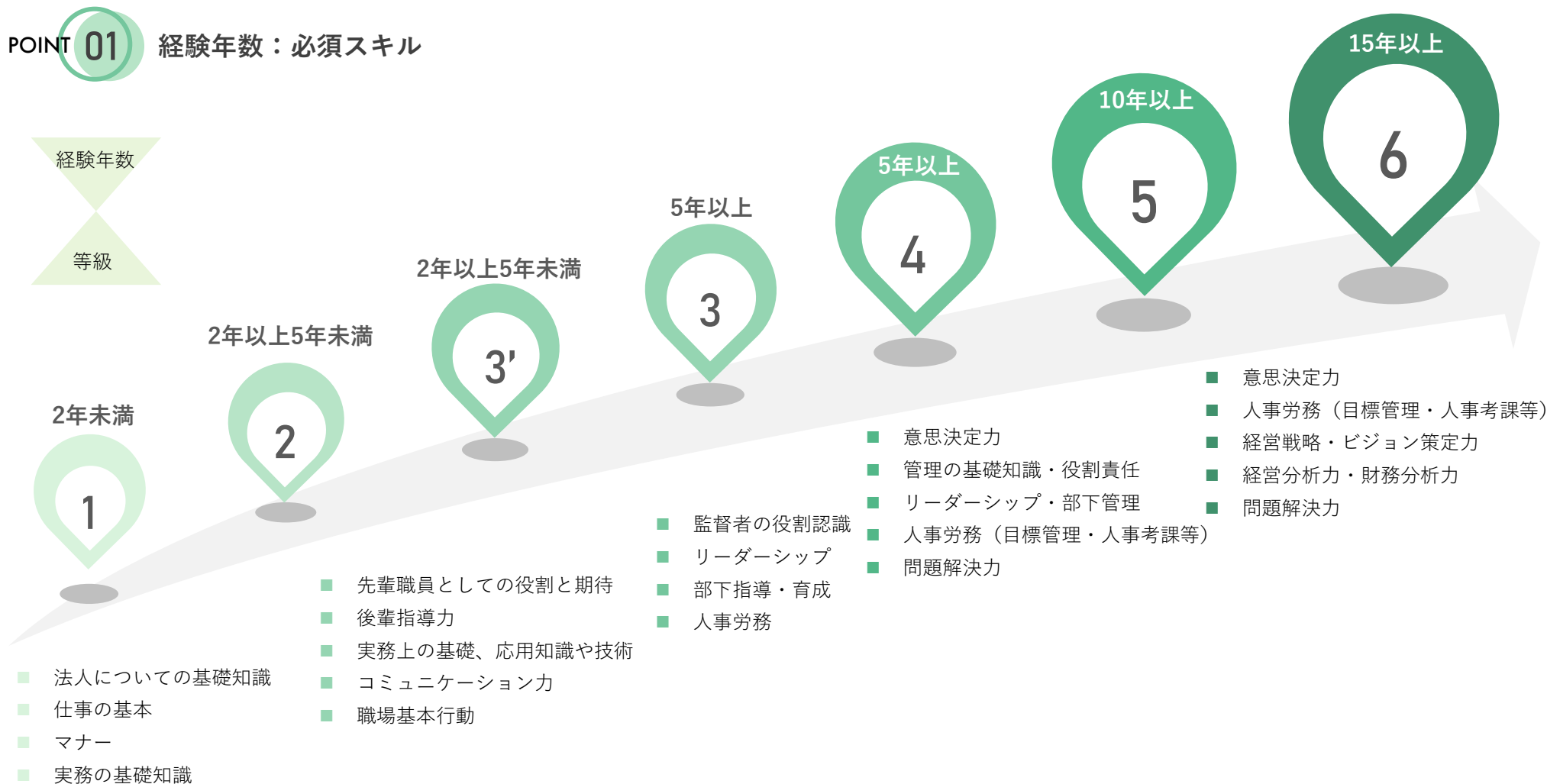


学習計画



ー キャリアパス ー

POINT 01 経験年数：必須スキル



POINT 02 経験年数：等級別必須スキル

1 初級・一般職

実務者研修

初任者研修

保育士

2 熟練・サブリーダー

社会福祉士

介護福祉士

保育士

3' プロフェッショナル

社会福祉士

介護福祉士

保育士

3 グループリーダー

社会福祉士

介護福祉士

保育士

介護支援専門員

- 社会人、組織人としての基礎を学ぶ
- マニュアルに基づく業務遂行を行なうこと
- 担当部署内の利用者、家族の満足度を高めること

- 専門性を高め、利用者に最善のサービスを提供するマニュアルに基づく業務遂行を行なうこと
- 担当職務の業務改善を提案・実行すること
- グループリーダー・園長を補佐すること

- 優秀なプレーヤーになる
- 卓越した知識・技能を高める
- 業務上の問題点に速やかに対応すること
- 新人や実習生の指導を行うこと

- フロア（園）の目標を達成する
- プレーイングマネージャーになる
- 部下と協働して成果を出す
- 担当職務の計画立案、実施指導ができること

POINT 02 等級別研修内容

1 初級・一般職

2 熟練・サブリーダー

3' プロフェッショナル

3 グループリーダー

OJT

- 報告連絡相談
- 経験、動機づける、伝える
- 自省力
- 各習慣（介護記録、メモ）
- ユマニチュード

- 報告連絡相談
- 経験、動機づける、伝える
- 課題分析
- 洞察力
- ユマニチュード

- 報告連絡相談
- 経験、動機づける、伝える
- 課題分析力
- 洞察力
- ユマニチュード

- 報告連絡相談
- 経験、動機づける、伝える
- 課題解決思考力
- 後輩指導
- ユマニチュード

OFF
JT

- 新人研修
- サービスマナー研修
- 保育士初任者研修会

- 認知症実践者研修
- スキルアップ学習会
- 保育士キャリアアップ研修会（中堅職員）

- 認知症実践者研修
- ステップアップ学習会
- 保育士キャリアアップ研修会（中堅職員）

- 天地塾
- ユニットリーダー研修
- 認知症実践者研修
- 海外福祉施設視察
- 全国保育士キャリアアップ研修

自己
啓発

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

POINT 02 経験年数：等級別必須スキル（管理職）

4 管理中級／室長・主任

社会福祉士

介護福祉士

介護支援専門員

- 部署（課）の目標を達成する
- やり方を変える・成果を出す
- 部下に任せ成果を出す
- 事業計画を策定・実行する
- 中心となって問題解決に導く
- サービスレベルを向上させる
- 部下育成・士気を高める
- 他部署との調整や連携を取る

5 管理上級／次長

社会福祉士

介護福祉士

介護支援専門員

- 施設の目標を達成する
- マネージャーになる
- 部下を育て、モチベーションを高める
- 施設の業績達成に取り組む
- 施設長を補佐すること

6 経営幹部／施設長

社会福祉士

介護福祉士

介護支援専門員

- 施設の事業計画を立案、統括責任を負う
- 中・長期経営計画の立案、統轄を行う
- 法人の予算管理、利益目標を達成する
- 法人の認知度を高める
- 後継者・次世代のリーダー育成に取り組む
- 行政、関係機関、地域との良好な関係の構築・発展をさせる
- 部下へ施策を示す

POINT 02 等級別研修内容

4 管理中級／室長・主任

5 管理上級／次長

6 経営幹部／施設長

OJT

- 報告連絡相談
- 経験
- 苦情処理
- 会議運営
- ユマニチュード

- 報告連絡相談
- 経験
- 職員指導
- ユマニチュード

- 報告連絡相談
- 経験
- 職員指導
- ユマニチュード

OFF
JT

- 天地塾
- 主任介護支援専門員研修
- 認知症実践リーダー研修
- 海外福祉施設視察

- 天地塾

- マネジメント研修
- トップセミナー
- 施設長研修会

自己
啓発

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度

- 奨学金制度
- 外部研修参加支援制度
- 書籍購入支援制度
- 表彰制度